

近代女子教育の成立をめぐる日中関係史研究

董, 秋艶

<https://doi.org/10.15017/1500480>

出版情報：九州大学, 2014, 博士（教育学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済

氏名	董 秋艶		
論文名	近代女子教育の成立をめぐる日中関係史研究		
論文調査委員	主査	九州大学	教授 新谷恭明
	副査	九州大学	教授 野々村淑子
	副査	九州大学	准教授 Edward Vickers
	副査	九州大学	准教授 趙世晨

論文審査の結果の要旨

本研究は、日中関係史という観点から中国近代女子教育が成立していく過程を解明した。清末中国においては日本をモデルとして教育制度を構築したのであるが、当初は女子教育は対象として考えられていなかった。本研究では清末中国において女子教育制度の構築が日本モデルにおいて構想されるようになった歴史的経緯を明らかにしたが、その重要なキーパーソンとして京師大学堂総教習呉汝綸を位置づけ、彼の日本視察に着目し、この視察に対する日本側の働きかけとそれを受け入れていった中国側の動きを丹念に分析したことはこれまでの研究史にはなかった新しい観点である。呉の日本視察に着目することで、日本の女子教育界が中国の女子教育普及に関心を持つようになり、日本が中国の女子教育普及事業を啓発誘導できる態勢を整えようとしたこと、東洋婦人会を設立して裨補事業を展開したことなどを解明することになった。そして、呉汝綸が日本の女子教育情報を収集・検討し、「賢母」養成を女子教育の目的として措定し、これに加えて日本の女子教育に不足していた徳育面の強化をはかり、後の奏定学堂章程中蒙養院章程及家庭教育法章程に反映していったことなど相互の関係性が生み出した歴史的成果を導き出した。さらにこうした成果が中華民国の壬子癸丑学制に受け継がれていったことも論証している。このように日中関係史という視点で中国の女子教育の成立過程を解明した功績は日本教育史研究及び中国教育史研究の双方に重要な知見を与えるものとして価値ある貢献であった。

よって本論文は博士（教育学）の学位に値するものと認める。